



フランネル フラワーの育て方

Q. 最近、白い布で作った星のような花(写真)をよく見かけます。花の名前と育て方を教えて下さい。

A. オーストラリア原産のフランネル フラワー (Actinotus helianthi) というセリ科の植物です。栽培が難しく普及しませんでした。丈夫な品種ができましたので日本でも花壇に使われるようになりました。

《ポイント》

半日陰の場所、砂質の水はけのよい土、根の保護が栽培に成功する条件です。寒さに弱いので冬に枯れますから、1年草として扱うのがよいでしょう。



1 植物学

直立性の植物で高さ50cm、銀灰色の菊に似た分裂葉は長さ10cm。銀白色、デージー状の頭花は径8cm。

柔らかくフランネル状で先が緑の苞が春から夏に現れます。

2 分布

オーストラリア (ニューサウスウェールズ、クイーンズランド)

3 繁殖

種子 (とりまきがよい) か固まった枝の挿し木。

4 栽培

自生地では緩い構造の砂岩の上に厚さ3-4cmくらいの砂壤土に育っています。砂を多くした水はけのよい土で鉢植えし、乾燥気味に育てるのがよいでしょう。

根がほかの植物の陰になって涼しく保護されていれば直射光にも耐えます。切花やドライフラワーに使えます。

‘フェアリー ホワイト’などの品種が販売されています。



7月の園芸相談 Q&A

つるなしインゲン

Q. これからコンテナでつくる野菜はなにがよいでしょう？

A. つくりやすいのはつるなしインゲンです。タネまき後60日くらいで収穫できます。

《ポイント》

- ・ 連作、酸性土をきらうので、新しいpH 調整した(石灰を加えた)用土を使います。
- ・ 追肥は開花し始めるころから与えます。マメ科のなかでは肥料をよく吸い、初期生育をよくすることが大切です。しかし多過ぎるとつるボケし、落花が多く収量が少なくなります。



1 品 種

さつきみどり2号；莢が濃緑でスジがなく、丸莢。

ジャンビーノ（つるなし）；平莢で皮が厚い。

サクサク王子；曲がりのない丸莢。

2 容 器

普通プランター3株（1株は2本）、

10号鉢2株

3 用 土

赤玉土（3）、腐葉土（1）、パーミキュライト（1）の混合

pH調整；苦土石灰15g/用土10L。

元肥；化成肥料20g/用土10L。

4 タネまき

1か所3粒ずつ20cmの間隔をあけてまく、深さはタネの厚さの3倍。

発芽後1か所2本に間引く。

5 敷きわらと土寄せ、追肥

乾くと成長が鈍るので、わら（新聞紙でもよい）を敷いて乾燥を防ぐ。開花するころ化成肥料6—7g/1株を与え、増し土をして倒伏を防ぐ。

6 収 穫

開花後10—12日で収穫。種子がふくれないうちに。

